

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0846
施設名	本所たから保育園
施設所在地	東京都墨田区東駒形4-4-7
法人名	社会福祉法人宝樹会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『調べる・育てる・食べる』をテーマに自分たちで育てていく中で様子を観察したり、作って自分たちが食べるだけでなく他のクラスのお友だちにも食べてもらう事で自然の不思議さに気づいたり、調べて自分の知識にしていく事の面白さにも気づいていく。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 散歩時に見つけた梅の実から、梅の実について調べ、ジュースを作りたい、あるいはプランターで栽培をした枝豆について調べてきな粉を作ってみたい等の興味関心が広がっていたので。

2. 活動スケジュール

子どもたちが興味を持った食材について友だちと一緒にだったり自分で調べたりすることを楽しむ。調べた事などをみんなで話し合い、何が出来るか、してみたいかなどを繰り返し行い、実行できることを楽しんでいく。その中で、自然の中で植物が育っていく過程や様々な食材についても気づいたり、興味を持つことができるようにしていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

ジュース・ジャムづくり用の入れ物 梅・レモン・様子観察、話し合いのための電子黒板
プランター等栽培用品 コンポスター・残食材

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

梅の実ジュースを作りたい→他のジュースも作りたい→ジュース作り→出来上がっていく過程の観察→試飲会（話し合い）→配達ジュース屋さんの実施→保護者にも飲んでいただく→残った実をどうするか→ジャムづくり→みんなにおやつで食べてもらう→枝豆が出来てきた→枝豆で出来るものを調べる→きな粉づくりをする→みんなで食する→プランターの土について興味を持つ→土に還る服について知る→コンポスターのお世話を始める

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

ジュース作りをした子たちが試飲を行った後、他のクラスのお友だちにも飲ませてあげたい、お母さんにも飲んでほしいという意見があり、どうやったらいいのか等の話し合いを子供たち主導で行ったり残った実はどうするのか、それぞれ考えを伝えあい、実行する方法等も決めることが出来ていた。ジュースは保護者にも飲んでいただくブースを作り保護者の方々からも感想をいただくことが出来、またこどもたちにとっては大きな喜びだったようだ。枝豆についてもジュースの時よりも更に多い人数が興味を持って話し合い、きな粉も作れることに気づき、職員と一緒に作り方を調べ、作りみんなで食べることも楽しんだ。他のクラスにも振る舞い喜んでもらったことで満足感を得ていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちが自分で調べ、みんなの前で伝えることが徐々に自信をもって発表できている姿や、自分たちだけでなく他の小さなクラスのお友だちや保護者にも飲んでほしい、食べてほしいという共感意識、そしてそれを実行するためにどんなやり方が良いかなど話し合いを行う力がついていたり、不思議に思う気持ち等も大人が想像していなかった面に気づくことなど、年長児は自分たちで話し合い、決めていく力がついてきているなど知ることが出来た。